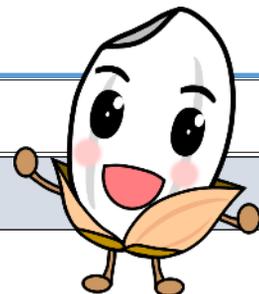


令和6年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第8号 (水稻)

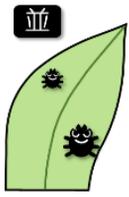
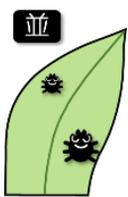
令和6年8月9日発表 (対象期間：令和5年8月上旬～8月下旬)



1- (1)

水稻病害虫の現況と予報 (概要)

病害虫名	現況	予報	防除上の注意事項
穂いもち (中生)	並 (葉いもち)	並 (葉いもち)	<ul style="list-style-type: none"> 出穂前後の降雨により、穂いもちの発生が助長されます。穂ばらみ期、穂ぞろい期の穂いもちの基幹防除を徹底しましょう。 にわか雨が多い場合は病勢が急激に進展するため、ほ場を見回り、葉いもちの多発が見られたほ場では直ちに防除しましょう。
紋枯病	並 (葉いもち)	並 (葉いもち)	<ul style="list-style-type: none"> 梅雨明け後に高温で経過すると感染が進み、発病が増加するので注意が必要です。 昨年、発生が多かったほ場は注意が必要です。 防除を行う判断の目安は、穂ばらみ期の発病株率が、早生品種で10%以上、中生品種で20%以上になった時です。
セジロウンカ	やや少 (葉いもち)	やや少 (葉いもち)	<ul style="list-style-type: none"> 通常、出穂後の防除は必要ありません。 要防除水準；幼穂形成期から穂ばらみ期に10頭/株以上
トビイロウンカ	並 (発生なし)	並 (発生なし)	<ul style="list-style-type: none"> 中生品種で、長期残効型箱施用剤（トリフルメゾピリム含有）を処理していない場合、ほ場での発生を確認し、発生が見られた場合は防除を行いましょう。 トビイロウンカの幼虫は、株元に多く生息するため、粉剤や液剤により防除を行う場合は、薬剤が株元に十分届くよう散布しましょう。 要防除水準：飛来後第2世代幼虫5頭/株以上
コブノメイガ (中生)	やや多 (発生なし)	やや多 (発生なし)	<ul style="list-style-type: none"> 穂ばらみ期、穂ぞろい期の2回の防除を徹底の上、中生以降の品種で被害株率20%を超える場合、粉剤・液剤は発蛾最盛期の7日後、粒剤は発蛾最盛期に防除を行います。
斑点米カメムシ類	多 (発生なし)	多 (発生なし)	<p>令和6年7月26日発表の 「令和6年度病害虫発生予察情報 注意報第2号」、 令和6年8月9日発表の 「令和6年度広島県病害虫発生予察情報 技術情報第4号」を参考としてください。</p>

① 穂いもち (中生)		現況	予報
予報の根拠	<ul style="list-style-type: none"> ● 8月上旬巡回調査では、葉いもちの発生地点率が33.3% (平年49.5%) で、平年並みの発生になっています (±)。 ● 中国地方1か月予報では、気温が高く、いもち病の発生を抑制します (-)。 	 (葉いもち)	
(+) : 多発要因 (±) : 平年並 (-) : 少発要因			

【防除上の注意事項】

- 出穂前後の降雨により、穂いもちの発生が助長されます。
穂ばらみ期、穂ぞろい期の防除を徹底し、穂いもちの発生を予防しましょう。
- にわか雨が多い場合は病勢が急激に進展するため、ほ場を見回り、葉いもちの多発が見られたほ場では直ちに防除しましょう。
- 葉いもちが多発しているほ場では穂ぞろい期防除の7～10日後に追加防除を行いましょう。
- 以下の「ひろしま病害虫情報 病害虫図鑑 (普通作物)」もご覧下さい。

「病害虫図鑑 (普通作物)」

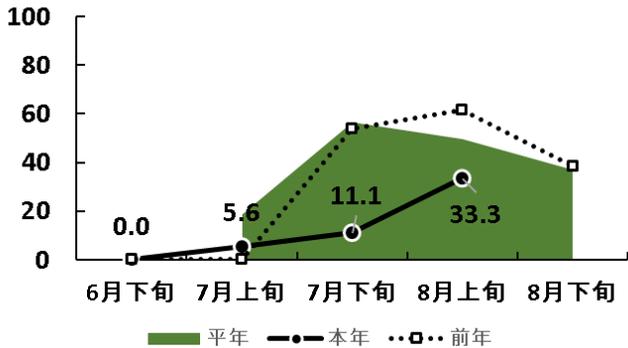
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/futsuusaku.html>

「水稲病害虫調査結果の詳細と発生予測～葉いもち発生予測システム」

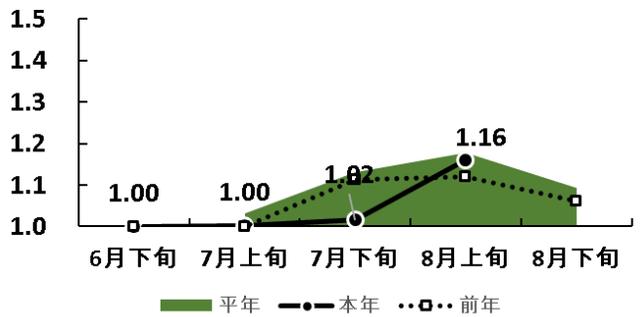
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/suito-imotobi.html>

【巡回調査データ (葉いもち)】

葉いもち 発生地点率 (中生 18地点)



葉いもち 発生程度 (中生 18地点)



穂いもち



穂首部分 (拡大)

② 紋枯病

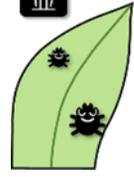
現況 予報

予報の根拠

(+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因

- 8月上旬巡回調査では、発生地点率は25.7%（平年33.9%）で平年並の発生となっています（±）。
- 中国地方1か月予報では気温が高く、紋枯病の発生に好適です。

並



並



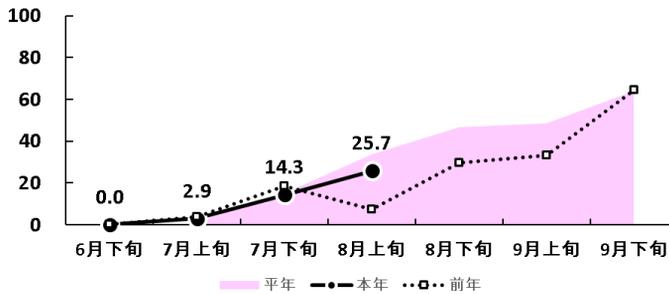
【防除上の注意事項】

- 高温、多湿を紋枯病菌は好みます。夏期高温や降雨や曇天が続くことが予想されるときは発生に注意しましょう。
- 昨年発生が多かった場合は、越冬した菌核量が多く注意が必要です。
- 薬剤防除は、病斑が上位葉鞘に進展してくる穂ばらみ期から出穂期が適期です。薬剤は、病患部の葉鞘によく付着するよう株元をねらって散布しましょう。
- 要防除水準：穂ばらみ期の発病株率が、中生品種で20%以上。

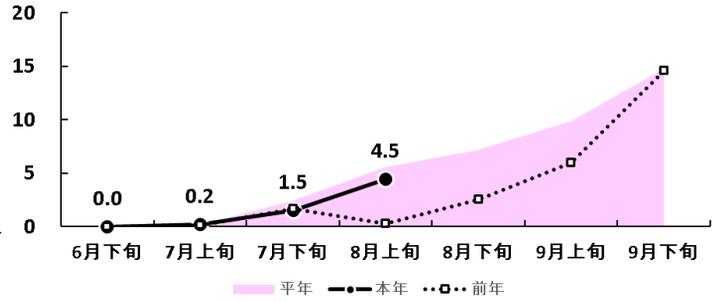


【巡回調査データ】

紋枯病 発生地点率(県全域35地点)



紋枯病 発生株率(県全域35地点)



③ セジロウンカ

現況 予報

予報の根拠

(+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因

- 8月上旬巡回調査では、発生地点率、発生程度ともにやや少ない発生でした（-）。
- 予察田では、8月第2半旬には100株当たり408頭（平年672頭）となっており、平年並みの発生になっています（±）。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、増殖に不適です（-）。

やや少



やや少

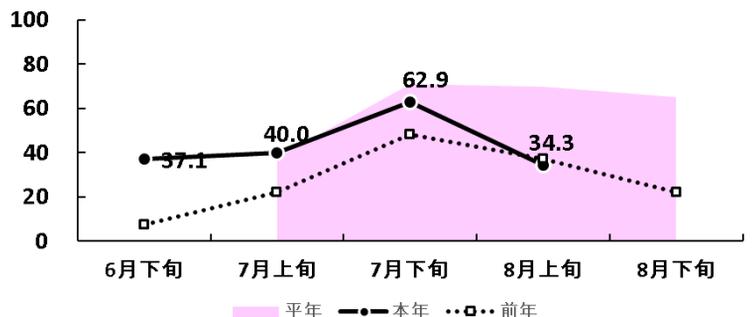


【防除上の注意事項】

- イネをよく観察して、飛来した成虫の早期発見に努めましょう。ウンカ類の払落し調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「[調査の方法](#)」をご覧ください。
- 通常、出穂後は水田から移動するため防除は必要ありません。
- 要防除水準：幼穂形成期から穂ばらみ期に中老齢幼虫・成虫 10頭/株以上

【巡回調査データ】

セジロウンカ 発生地点率(県全域 35地点)



長翅型成虫



中老齢幼虫

④ トビイロウンカ

現況 予報

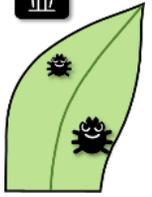
予報の根拠

- 8月上旬巡回調査では、発生は確認されませんでした(±)。
- 予察灯(呉市)で、6/24と7/12に雌成虫が1頭ずつ確認されました。予察灯(東広島市)では、7/26に1頭確認されました。
- (+):多発要因
- (±):平年並
- (-):少発要因
- (+)
- 予察田(呉市)では、確認されませんでした(±)
- 一部で発生が確認されています(+)
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、増殖に不適です(-)。

並
(発生なし)



並



【防除上の注意事項】

- 中生品種で、長期残効型箱施用剤(トリフルメゾピリム含有)を処理していない場合、ほ場での発生を確認し、発生が見られた場合は防除を行いましょう。
- トビイロウンカの幼虫は、株元に多く生息するため、粉剤や液剤により防除を行う場合は、薬剤が株元に十分届くよう散布しましょう。
- 飛来後第2世代の幼虫発生盛期は8月中旬です。
- 要防除水準:飛来後第2世代幼虫5頭/株以上
- ウンカ類の払落し調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「[調査の方法](#)」をご覧ください。



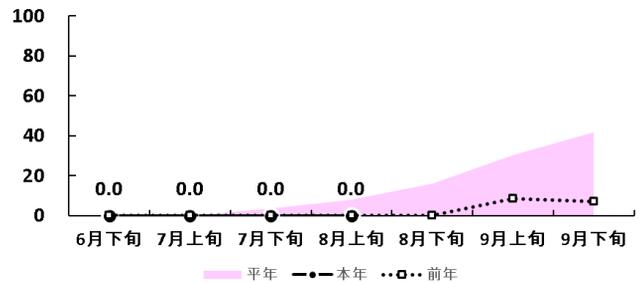
長翅型成虫

短翅型成虫

中老齢幼虫

【巡回調査データ】

トビイロウンカ 発生地点率(県全域 35地点)



⑤ コブノメイガ(中生)

現況 予報

予報の根拠

- 8月上旬巡回調査では、平均発生株率が8.2%(平年4.7%)で過去10年で2番目に高くなっており、要防除水準を超えるほ場の割合は11.1%(18地点中2地点)となっています(+)
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、増殖に好適です(+)

やや多



やや多

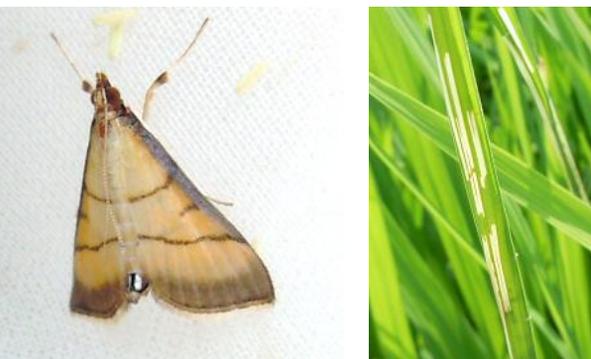
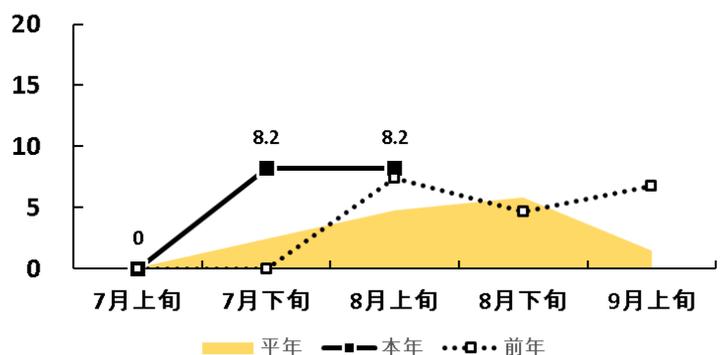


【防除上の注意事項】

- 8月下旬、9月上旬まで食害が続く可能性があります。
- 7月中旬に飛来した場合、発蛾盛期は8月中旬です。
- 穂ばらみ期、穂ぞろい期の2回の防除を徹底の上、**中生以降の品種で被害株率20%を超える場合、粒剤は発蛾最盛期、粉剤・液剤は発蛾最盛期の7日後に防除を行います。**

【巡回調査データ】

コブノメイガ 平均発生株率(中生 18地点)



成虫

被害葉

⑥ 斑点米カメムシ類

現況  予報

予報の根拠

- 8月上旬の早生品種本田すくい取り調査における要防除水準を超えるほ場の割合は54.7%（64地点中35地点）で、過去の注意報年より高くなっています（+）。
- イネカメムシの8月第1半旬までの予察灯（呉市）への累積誘殺数は86.0頭（平年10.1頭）となっており、過去10年で最も多くなっています（+）。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、増殖に好適です（+）。

(+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因

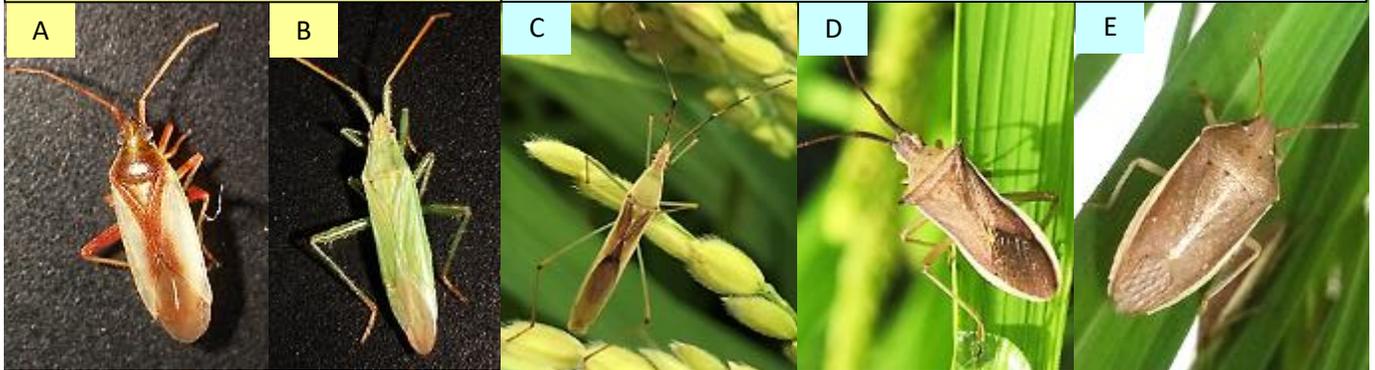


【防除上の注意事項】

令和6年7月26日発表の「令和6年度病害虫発生予察情報 注意報第2号」、令和6年8月9日発表の「令和6年度広島県病害虫発生予察情報 技術情報第4号」を参考にしてください。

カスミカメ類

その他加害種



A : アカスジカスミカメ、B : フタトゲムギカスミカメ、その他加害種C : クモハリカメムシ、D : ホソハリカメムシ、E : イネカメムシ

表. 本田すくい取り虫数（頭）

地帯	区分	令和6年	令和5年	令和4年	令和3年	平均
南部平均値	カスミカメ類	3.3	-	1.8	0.0	0.9
	その他加害種	8.6	-	0.9	4.5	2.7
中東部平均値	カスミカメ類	5.9	4.0	5.0	0.8	3.3
	その他加害種	4.8	0.2	0.3	0.5	0.3
中西部平均値	カスミカメ類	6.5	6.7	1.8	0.7	3.1
	その他加害種	6.9	0.5	0.9	0.5	0.6
北部平均値	カスミカメ類	3.5	8.6	4.1	3.5	5.4
	その他加害種	0.2	0.5	0.7	0.1	0.4
県全域平均値	カスミカメ類	5.0	6.5	2.6	1.4	3.5
	その他加害種	5.4	0.4	0.8	1.0	0.7

病害虫名	現況	防除上の注意事項
ヒメトビウンカ		出穂前後の防除を徹底して下さい。 また、縞葉枯病を発病した株は抜き取りましょう。
フタオビコヤガ		南部での発生がやや多いです。 穂ばらみ期防除を実施しましょう。

(広島地方気象台 8月8日発表、8月10日から9月9日までの天候見通し)

- 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
- 湿った空気の影響を受けにくいため、向こう1か月の降水量は平年並か少ないでしょう。
- 太平洋高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の日照時間は多いでしょう。
- 向こう1か月の平均気温は、高い確率80%です。
- 週別の気温は、1週目は高い確率80%、2週目は高い確率80%、3~4週目は高い確率70%です。

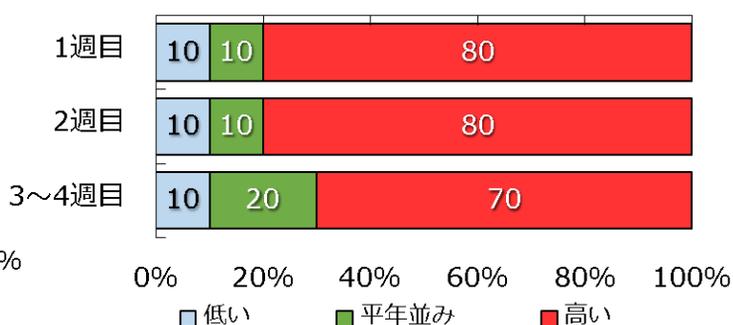
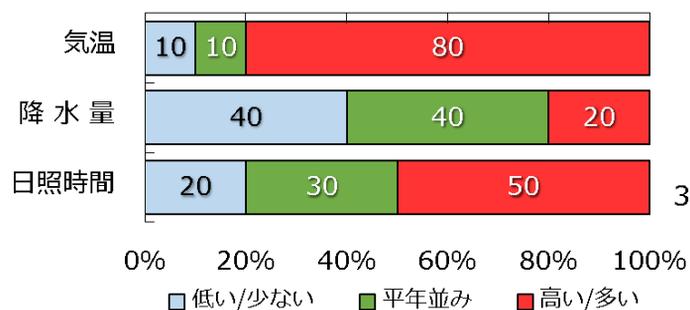


図1. 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率 (%)

図2. 向こう1か月の気温経過の各階級の確率 (%)

6月1日から8月31日まで、**農薬危害防止運動**実施中！
農薬を使う際は、容器のラベルをよく読んで、使用方法や注意事項を守り、農薬による危害と事故を防ぎましょう。





【現況・予報の区分について】

「現況」「予報」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分は、原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。

- 「多」 : 1番目（最多年）と同程度以上
- 「やや多」 : 2～3番目と同程度
- 「並」 : 4～7番目と同程度
- 「やや少」 : 8～9番目と同程度
- 「少」 : 10番目（最少年）と同程度以下



●PCでアクセス

ひろしま病害虫情報

検索

掲載アドレス↓

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>

●スマホでアクセス

ひろしま病害虫情報

QRコードはこちら →



お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム

〒739-0151 東広島市八本松町原6869

電話：082-420-9662（直通）